きたネット ニュース
KITA-NET NEWS 2017/08

自然を守るための社会的仕組みは～宮内泰介氏

【5/14 総会同日行事きたネットセミナー】

今回は、北海道大学大学院文学研究科の宮内泰介教授に「どうすれば環境保全はうまくいくのかー自然を守るための社会的しくみ」というテーマでお話しいただきました。

環境をめぐる問題は、手つかずの自然とそれを壊す人間、といった対立の視点だけで捉えることはできません。科学的な知見を使えば、環境保全がうまくいくかといえば、そうとは限りません。さまざまな現場を歩き、人と自然の多様で複雑な関係を通して環境保全のこれからを考えてきた宮内先生は、「半栽培」という視点が大事だ、と言います。半栽培とは、野生と栽培（人工）との間にある、さまざまな人と自然のかかわりのことです。宮城県北上町では、海藻採集において、酸性化した石を新しい石に変えたり、採ることで雑草の繁殖を防いだりと、住民が海藻の生育を助ける、さまざまな工夫があるそうです。北上川河口域のヨシ原でも、人がヨシ原を刈ることで、他種の侵入や栄養分の流出が防がれたり、成長が促されたりするそうです。半栽培といっても、放っておくといった限りなく野生に近い状態から、移植といった栽培（人工）に近い状態まであることが、ソロモン諸島の事例で紹介されました。

人と自然の様々なかかわりがきちんと理解されなければ、環境保全にとって住民は悪だとか、そういう極端な話になってしまう、と宮内先生は注意を促しました。そして、「半栽培」のかかわりが維持されるために大切なのは、地域で共同で自然を管理する「コモンズ」という仕組みだということです。北上町やスペインの事例を通して、住民がいろいろなルールや組織をつくりながら、地域の自然を共同で管理している様子が紹介されました。コモンズという仕組みのなかで、半栽培というかかわりもまた、維持されてきたということがよく分かる事例でした。

さて、いったいどうすれば、環境保全はうまくいくのでしょうか。ポイントとしてあげられたのは、かっちりと決めた仕組みはうまく動かない、ということでした。試行錯誤を保障しながら、みんなで、柔軟に動かしていける仕組み、それを「順応的ガバナンス」という言葉で紹介されました。このような仕組みを回して行くには、例えば、共通の目標を設定したり、活動を評価するシートをつくったり、さまざまな「学び」の場を設定したりすることが役に立つ、と宮内先生は提案します。そして大事なのは、現場にあるさまざまな声を「聞く」ことだとも言います。声を聞く方法として、宮内先生が各地で実践してきた「聞き書き」があります。聞き書きには、お互いに成長する、地域を発見する、更なるアクションへと繋がる、といった効用があるそうです。「聞き書き」の具体的な手順についても教えていただきました。

宮内泰介（みやうちたいすけ）1961年愛媛県生。博士（社会学）。北海道大学大学院文学研究科教授。環境社会学。NPO法人さっぽろ自由学校「遊」共同代表。主な著作に『半栽培の環境社会学』（編著）、『コモンズの社会学』（共編著）。2017年には、『どうすれば環境保全はうまくいくのか―現場からの「順応的ガバナンス」の進め方』（編著）『歩く、見る、聞く　人びとの自然再生』（著）を発刊。

アフリカゾウから地球への伝言 ケニヤから中村千秋氏

【6/12 きたネットカフェ】

ケニヤで、アフリカゾウの調査・研究を続けるかたわら、子どもたちの教育や住民の自立支援活動を行っている中村千秋さんに、「アフリカの大自然から、野生動物と人間社会の調和ある共存と共生を問い直す」と題してお話をうかがいました。

地域住民にとって、大型野生動物は生命を脅かす「害獣」でした。中村さんは水汲みの際の事故が多いことから村に水道を引くことを提案。地域の女性たちにミシンを贈り裁縫の技術を伝え、自分たちの手で資金を稼ぎ水道を引く支援を行いました。それによってゾウとの軋轢が軽減し、ゾウが排除や恐れの対象ではなくなっていきました。「ゾウが千秋を連れてきてくれたから、私たちにとってゾウは大切なもの」という現地の方の言葉が印象に残ります。

2016年のワシントン条約締結国会議で、象牙の国際取引の全面停止提案に、日本が強引に反対して「密猟、または違法取引につながる市場」のみの取引停止の採択にとどまりました。大型野生動物が健全に生活できる環境を守ることは、人という種にとっても豊かで恵み多き環境の持続に繋がります。北海道がヒグマとの共生によってもたらされている恩恵を見つめ直し、より良い共生を考えるヒントにもなる、貴重なお話でした。

中村千秋（なかむらちあき）1958年東京生まれ。アフリカゾウ研究者。NPO法人サラマンドフの会代表理事。酪農学園大学特任教授。
http://salamandovusociety.org/

「きたネット」新体制になりました。

（2017-2018役員）

理事長	金子正美（酪農学園大学環境GIS研究室・新任）
副理事長	枝澤則行（ふるさと美幌の自然と語る会・再任）
	川口弘高（個人会員・再任）
常務理事	宮本尚（個人会員・再任）
理事	秋山孝二（個人会員・再任）
	麻生翼（NPO法人森の生活・再任）
	植田英隆（個人会員・再任）
	内山到（個人会員・再任）
	草野竹史（NPO 法人ezorock・再任）
	清水誓幸（個人会員・再任）
	西川瀞二（北海道林業技士会・再任）
	鈴木玲（手稲さと川探検隊・再任）
	辻昌秀（個人会員・再任）
	東田秀美（個人会員・新任）
	星劭（（一財）セブン-イレブン記念財団・新任）
監事	高橋忠義（定山渓ホタルの会・再任）
	小林保則（個人会員・再任）

どうぞよろしくお願いいたします。

KITA-NET MEMBERS

NPO法人シマフクロウ・エイド

シマフクロウと共生する未来のために地域をつなぐ

NPO法人シマフクロウ・エイドは、地域の基幹産業の源でもある環境の持続的な保全を視野に入れ、個人・企業・行政・団体等の協力や支援のもと、シマフクロウと共生する未来に取り組んでいます。1993年から環境省のシマフクロウ保護調査員として個人で関わり、関係地域や一般への普及教育が無い状況下での保護活動の今後の展開に疑問を持ちました。2008年にNPO法人を設立。以来、継続してきた調査、補助給餌や植林など「守る活動」を定期的に実施し、その成果や課題をスライドトークや環境教育など「伝える活動」で共有する機会を作っています。地域の子どもたちには、シマフクロウを指標とした生き物同士のつながりや身近な自然環境の大切さを体験を通じて考える場を提供しています。

蝦夷が島（北海道）に暮らす梟だから島梟（シマフクロウ）。河畔林に生息する彼らが在ることは、生物多様性のある森や川が在り、子どもたちが安心して暮らせる環境が在る未来につながります。‘シマフクロウの暮らしやすさ’をヒントに、地域の人の手によって身近な環境、自然生態系の元締めとなる森が守られていく、その結果シマフクロウや私たちも暮らしやすい未来をつくる、この取り組みが他の地域にも広がれば、緑の回廊の強化になり、シマフクロウの移動分散の促進や、種の存続にも良い影響をもたらしていくと考えています。

【電話】0153-65-2183
【HP】https://fishowlaid.jp

NPO法人大雪山自然学校

利用者自らが主体的に環境保全に関わる仕組みづくり

大雪山自然学校は、東川町を拠点に、人と自然が共生する持続可能で豊かな暮らしを目指し活動しています。

主な活動は①環境保全活動/「利用者による環境保全の仕組み作り」をコンセプトに、大雪山国立公園・旭岳天人峡地区の登山道整備、入山前のレクチャーなどを委託事業にて実施。利用者自らが主体的に環境保全をすることで、自然が荒れない社会環境を生み出す仕組み作りを、行政、企業、ホテルなどと連携して進めています。②子供自然体験活動/小学生を対象とした自然体験プログラムや長期休暇中のキャンプなどの実施（年間2000人程度）。③地域に根差した交流推進活動/大雪山のエコツアーガイドやキトウシ森林公園での健康プログラムの実施（年間1000人程度）。さらに④人材育成活動/自然保護監視員業務を通して、ボランティア・インターン・CSR事業の受入れを行なっています。企業の福利厚生プログラムとして実施されたり、経産省が実施する「ふるさとプロデューサー事業」の研修プログラムに採用されたりしています。人が育つと同時に、環境が改善され、環境保全にかかるコストも下がります。

利用者、地域住民ひとりひとりが、自然を楽しみ、その恵みを分かち合うと同時に、主体的に目の前の課題について考え、相互に学び、自律的に行動できる社会が、私たちが描く未来の姿です。

【電話】0166-82-6500
【HP】http://daisetsu.or.jp/

News

きたネットの新プロジェクトです

http://kitamap.net

KITA-NET CHOISE

環境保全活動のデータベース「きたマップ」をご活用ください。

「きたマップ」では、北海道の市民環境団体の活動情報、自治体の環境保全に関する条例や施策、環境教育や森林保全活動の実施状況など、北海道の環境保全活動に有用と考えられる情報を、地図上で見ることができます。

「きたネット会員情報＆活動地マップ」では、会員団体・企業の所在地や活動地を地図上に置き、どこのエリアでどんな活動をしているか、また、パンフレットや出版物を収集する「ライブラリ」に、活動の貴重な資料をストックし、公開できます。

きたネットの会員団体には、IDとパスワードを発行。情報の更新やライブラリへのデータの投稿は、各自でできるようになりました。入力のマニュアルはインターネットからダウンロードもできます。

「きたマップ」は2017年5月に試験公開しました。提供可能な情報はまだ多くはありませんが、今後、時間をかけて、機能・内容の充実をはかっていきます。北海道の自然と人のゆたかな未来のために、さまざまな活動が「見える・つながる」データベースをめざします。一般のみなさまから情報をお寄せいただいた「北海道の守りたい自然」もマップにまとめていく予定です。

Event

きたネット2017年度の主なイベントスケジュールです。
詳細はお問い合わせください

- 9/6(水)20:00～　きたネットラジオカフェ（コミュニティ FM ラジオカロスで隔月放送　http://www.radiokaros.com/）
- 9/30(土)　市民活動助成セミナー 2017　会場：札幌駅前ビジネススペース
- 10/21(土)　ラブアースの森づくりin札幌　場所：札幌市茨戸川緑地
- 12/9(土)　きたネットフォーラム2017　会場：札幌エルプラザ

●きたネットのネットワークに参加しませんか。　会員は以下の2種類です
1. 正会員（市民環境活動団体・個人）年会費5,000円（1口）～総会における議決権を有します。
2-1賛助会員（企業・団体）年会費10,000円（1口）～総会における議決権は有りません。
2-2賛助会員（個人）年会費2,000円（1口）～総会における議決権は有りません。
●会員になると…各種連携事業の実施、広報協力、
会員間の交流・活動発表の場の提供、イベント参加費等の会員料金適用、
きたネットMLへの参加、各種環境情報の提供など。詳細は事務局にお問合わせください。